

2020
ハンドブック
南海

HAND BOOK NANKAI 2020

お客さまとともに
南海グループ



南海電気鉄道株式会社

NANKAI ELECTRIC RAILWAY CO.,LTD.

企業理念ほか

当社は企業理念とそれに基づいたコーポレートシンボルのもと、鉄道事業を軸とした総合生活企業として、人々の生活をトータルに応援する広

範な事業を通じ、社会の発展とともに、広く社会に貢献する企業を目指しています。

企業理念(1993年4月1日制定)

南海は英知と活力で未来をひらきます

【社会への貢献】

明日を創造する総合生活企業として、社会の信頼にこたえ、その発展に貢献します。

【お客さま第一】

快適な生活と豊かな文化を追求し、お客さまに最良のサービスを提供します。

【未来への挑戦】

たくましい行動力と創意をもって、新しい時代のニーズに挑戦します。

【活力ある職場】

一人ひとりの知恵と個性をいかし、明るく活気あふれる職場をつくりまします。

南海人五則(1971年2月制定)

1. 仕事と取組み 現実の仕事から会社の将来を考えよ
2. 仕事に不平を言わない たとえ仕事に不満であっても その中で自らの充実をはかれ
3. 自分自身の計画を持って 計画を持てば 忍耐と工夫と正しい努力と希望が生まれる
4. 自信を持って 自信がないと 君たちの仕事に迫力も粘りも生まれない
5. 行動力を持って 摩擦をおそれるな そうでない君たちは消極的で卑屈になる

企業倫理規範(2001年9月12日制定)

1. 法令その他の社会的規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行う。
2. 顧客、取引先、株主等を含む幅広い社会との、健全で良好な関係の維持に努める。
3. 地域社会に貢献する良き「企業市民」たることを目指す。
4. 企業や市民社会の秩序に脅威を与える反社会的勢力や団体とは断固として対決する。

コーポレートシンボル(1993年4月1日制定)

総合生活企業として、未来に向けて力強く羽ばたいていく姿勢を表現するため、ファインレッドとブライトオレンジの2色で構成した2つの翼を組み合わせています。

ファインレッドは、南の海に輝く太陽のような企業の情熱、ブライトオレンジは、おほかで明るいヒューマンな心を表しています。



お客さまとともに(2001年10月からグループ全体で実施中)

お客さまに引き続き当社グループをご利用いただくためには、お客さまのニーズに対応し、支持を得ることができる良質なサービス・商品を提供することが不可欠です。

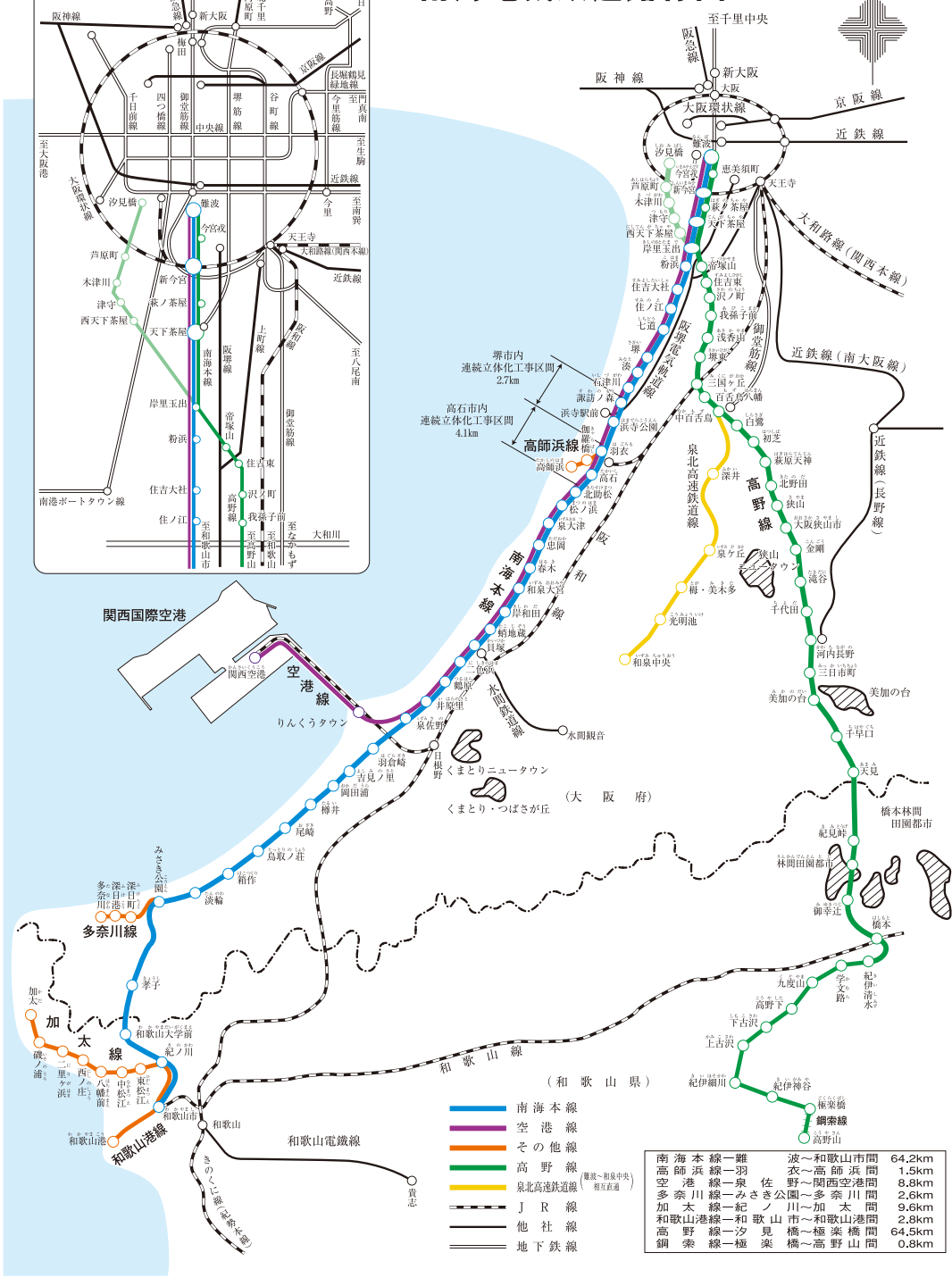
社員一人ひとりがお客さまの目線に立った考え・行動をとること。それが「お客さまとともに」の取り組みです。

お客さまとともに

南海グループ



南海電気鉄道路線図



南海本線	難波～和歌山市間	64.2km
高師浜線	羽衣～高師浜間	1.5km
空港線	泉佐野～関西国際空港間	8.8km
多奈川線	みさき公園～多奈川間	2.6km
加太線	紀ノ川～加太間	9.6km
和歌山港線	和歌山市～和歌山港間	2.8km
高野線	汐見橋～極楽橋間	64.5km
鋼索線	極楽橋～高野山間	0.8km



CONTENTS

南海グループのあらまし

南海グループの概要	4
南海グループ経営ビジョン2027	5
中期経営計画「共創136計画」	6
沿線価値向上の取組み	10
南海グループのあゆみ	12
連結財務諸表	14
連結経営成績の推移	16
CSR	17
グループ会社一覧	21
運輸セグメント	22
不動産セグメント	27
流通セグメント	32
レジャー・サービスセグメント	37
建設セグメント 其他セグメント	40

南海電鉄のあらまし

個別財務諸表	43
役員と組織	44
株式・株主	46
従業員構成	48
人材の育成	49
福利厚生	50

鉄道事業

路線図	52
鉄道事業の現況と実績	54
駅施設	58
安全・バリアフリー施設など	68
駅別乗降人員	74
列車種別運転本数	76
運賃のあらまし	78
普通旅客運賃表	82
泉北高速鉄道	88
定期旅客運賃表	90
営業キロ程表	92
スルッとKANSAI・PiTaPa・ICOCA	96
保線	98
電気	100
信号通信	102
連続立体交差事業	104
鉄道車両	106

年譜ほか

年譜	114
主な沿線人口	127
民鉄16社比較	128

南海グループの あらかし

南海グループの概要

南海グループは、南海電鉄を中心に、連結子会社54社、持分法適用関連会社1社など、合計74社で構成される企業グループです。(2020年3月末現在)

各グループ会社は、運輸、不動産、流通、レジャー・サービス、建設、その他の6セグメントに分かれ、企業としての社会的責任を果たすとともに、事業の堅実な成長を成し遂げることを目指して、それぞれの分野で事業展開を行なっています。

■ 南海電鉄の概要

▶ 社名	南海電気鉄道株式会社 Nankai Electric Railway Co.,Ltd.
▶ 創業	1885<明治18>年12月27日
▶ 設立	1925<大正14>年3月26日 (設立登記:1925<大正14>年3月28日)
▶ 本店	大阪市中央区難波五丁目1番60号
▶ 本社事務所	〒556-8503 (個別番号) 大阪市浪速区敷津東二丁目1番41号 ☎. 06・6644・7121 (総務部) Fax.06・6632・8437 URL http://www.nankai.co.jp/
▶ 東京支社	〒104-0061 東京都中央区銀座五丁目15番1号 南海東京ビル8階 ☎. 03・3541・5477 Fax.03・3541・5478
▶ 和歌山支社	〒640-8203 和歌山市東蔵前丁3番地17 南海和歌山市駅ビル7階 ☎. 073・433・1285 Fax.073・431・3573
▶ 資本金	729億8,365万円

■ グループ経営方針

当社グループの普遍的なテーマを「グループ経営方針」として位置づけます。

- 1 安全・安心の徹底**
鉄道をはじめとしたすべての事業において安全・安心を徹底します
- 2 環境重視**
「地球環境保全」を使命として認識、事業において環境に配慮します
- 3 コンプライアンスの徹底**
法令遵守、自らの社会的責任を認識、公正で健全な企業活動を行います
- 4 顧客志向の追求**
地域に密着した企業として、お客さま目線での行動を徹底します

南海グループ経営ビジョン2027(2018~2027年度)

持続的な成長に向けて長い時間軸で「ありたき姿」を定め、その達成に向けて各種の施策にぶれることなく取り組むため、南海グループの10年後のありたき姿として「南海グループ経営ビジョン2027」を策定しました。

■ 10年後のありたき姿

満足と感動の提供を通じて、
選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる

■ 10年間の方向性

なにわ筋線開業に向け、沿線を磨く10年間

- グループの総力を挙げて沿線価値向上に注力
- 「なんば」「インバウンド」をビジネスチャンスとして活用し、沿線価値向上を加速
- アライアンス(提携)を積極的に活用し、事業展開をスピードアップ

■ 事業戦略

1. 選ばれる沿線づくり

- ①良質で親しまれる交通サービスの提供
1.安全・安心で、強靱な交通ネットワーク
2.海外評価No.1の交通グループ
3.お客さま満足度の向上
- ②沿線の玄関口・なんばのまちづくり
「グレーターなんば」を創造
- ③沿線活性化策を総動員
10年後の人口動態を
転出超過から転入超過に逆転

2. 不動産事業の深化・拡大

- ①収益物件の拡充とフロービジネスへの進出
「総合デベロッパー」への脱却
- ②物流施設高度化の完了
(北大阪・東大阪流通センター)
不動産事業を鉄道と並ぶ柱に育成
(営業利益の過半に)

相乗効果

グループ経営基盤の整備

- ①事業選別の徹底
- ②ITを積極的に活用する企業グループ
- ③人材戦略
- ④財務戦略

■ 数値目標(連結ベース)

ビジョンの最終年度にあたる2027年度の数値目標は以下のとおりです。

営業利益(※)	450億円
有利子負債残高/EBITDA倍率	6倍程度

※営業利益+受取配当金

中期経営計画 「共創136計画」(2018~2020年度)

南海グループでは、この3年間を、すべての関係先・ステークホルダーと「共に創っていく3年間」と位置づけ、中期経営計画「共創136計画」に取り組んでいます。本計画は、「南海グループ経営ビジョン2027」の達成に向けた最初の3年間の取組みを示すものであり、同ビジョン達成の「基盤整備期」に「将来の成長のための布石を打つ」ための計画となります。

基本方針1 安全・安心で良質な交通サービスの提供

輸送の安全性・安定度向上と安全文化の一層の醸成のため、地震や風水害に対する施設の安全性と運転保安度の着実な向上、ホームや踏切の安全性向上に努めます。また、「選ばれる沿線づくり」のため、南海線7100系、高野線6000系、ケーブルカーを更新するほか、駅トイレの集中的・計画的な更新と、ストレスフリーな移動環境の整備を進めます。



ホームドア(難波駅)

八幡前駅トイレ

基本方針2 なんばのまちづくり

南海ターミナルビル近接ゾーン充実のため、「なんばスカイオ」のフル稼働、新規物件の取得、プロパティマネジメント業務の受注獲得、既存保有物件のリノベーションなどに取り組みます。また、「なんば～新今宮・新世界」南北軸の形成のため、なんばEKIKANプロジェクトを核とした周辺エリアの開発促進、日本で初めての就労インバウンドトレーニング施設「YOLO BASE」の開業、「星野リゾートOMO7 大阪新今宮」開発計画への参画などエリア全体の魅力と回遊性の向上に向けて取り組みます。



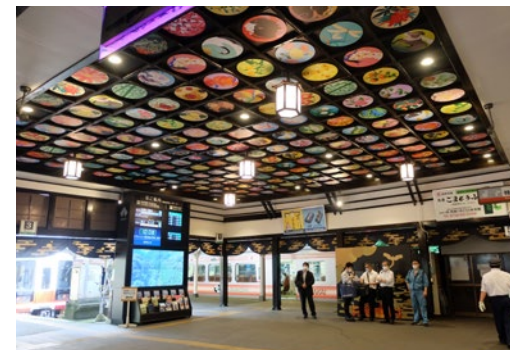
YOLO BASE 外観

基本方針3 インバウンド旅客をはじめとする交流人口の拡大

企画乗車券のeチケット・QRコード化の推進や多言語案内の充実、高野山と百舌鳥・古市古墳群の「2つの世界遺産」を活かした観光需要の創出を図ります。また、「出かける価値のある場所」を沿線各所に創出します。



多言語対応
お客さま案内用WEBサイト



“はじまりの聖地、極楽橋。”をコンセプトにリニューアル

基本方針4 駅を拠点としたまちづくり

地域特性に応じた駅の再整備・機能強化により、沿線の魅力向上・活性化を図ります。また、沿線自治体や関係各所との連携を深め、泉北をはじめとするニュータウンの再生・活性化に取り組みます。



キーノ和歌山

基本方針5 不動産事業の拡充

北大阪流通センターなど物流施設の高度化と、沿線を中心とした多様な不動産ビジネスを推進します。



北大阪トラックターミナル1号棟



不動産ビジネス推進のイメージ

数値目標(連結ベース)

計画の最終年度にあたる2020年度の数値目標は以下のとおりです。

営業利益(※)	370億円
有利子負債残高/EBITDA倍率	7.5倍以下

※営業利益+受取配当金

◆ なにわ筋線について

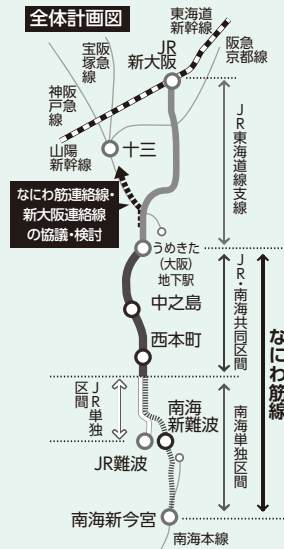
なにわ筋線は、空港アクセスの強化とともに、当社沿線と国土軸である新大阪や梅田地区を1つの路線で結ぶ関西の鉄道ネットワークの一翼を担う重要な意義を持っており、お客さまの利便性向上をはじめ当社沿線の価値向上に大きく寄与することが期待される路線です。

＜なにわ筋線の計画概要＞

整備区間	南海新今宮駅～(仮称)西本町駅～うめきた(大阪)地下駅 JR難波駅～(仮称)西本町駅～うめきた(大阪)地下駅
中間駅	(仮称)中之島駅 (仮称)西本町駅 (仮称)南海新難波駅
整備主体	関西高速鉄道
営業区間	当社：新今宮駅～うめきた(大阪)地下駅 JR西：JR難波駅～うめきた(大阪)地下駅

※「うめきた(大阪)地下駅」は、JR西日本が実施する東海道線支線地下化・新駅設置事業において、2023年開業予定の新駅の呼称

また、なにわ筋連絡線、新大阪連絡線については、国での調査結果を踏まえて、早期事業化を目指し、関係者での協議・検討を進めます。



◆ 選ばれる沿線、選ばれる企業グループを目指したブランディング活動

「南海グループ経営ビジョン2027」で掲げる「満足と感動の提供を通じて、選ばれる沿線、選ばれる企業グループとなる」の実現に向け、南海ブランドの確立に取り組んでいます。

◆ ブランドスローガン「'なんかいいね'があふれてる」

従業員一人ひとりの行動や発言が「南海ブランド」を形成しています。そこで、グループ全従業員のベクトルを合わせ、「目指す南海ブランド(南海らしさ)」を日ごろから意識して取り組むために、ブランドスローガン「'なんかいいね'があふれてる」を策定しました。

私たち南海グループは、

心なごみ、心ときめく喜びを結び、広げます。

そのために、安全性、利便性、快適性と

良質なコミュニケーションを追求することで、

新たな価値を提供し、お客さま満足を高めていきます。

そして、人、まち、暮らしに「なんかいいね」があふれる活気に満ちた沿線、

明るい未来を実現するサステナブルな沿線づくりに努め、

お客さまに愛され、選ばれる南海グループを目指します。

‘なんかいいね’があふれてる

◆ ブランド向上のためのインナーコミュニケーション活動

従業員がブランド向上に取り組む意義や必要性を理解し「自分事」として捉えられるよう、ブランドのインナーコミュニケーション活動を推進しています。

ブランドスローガンに込められた意味や、従業員が業務でどのようなことを実践すべきかを解説した「南海ブランドブック」をグループ全従業員に配布し、このブックを活用して研修や職場ワーキングを行っています。

また、従業員自身が誇りを持てる「なんかいいね」があふれる活力ある職場を目指した「なごみときめき活動」を実施しています。

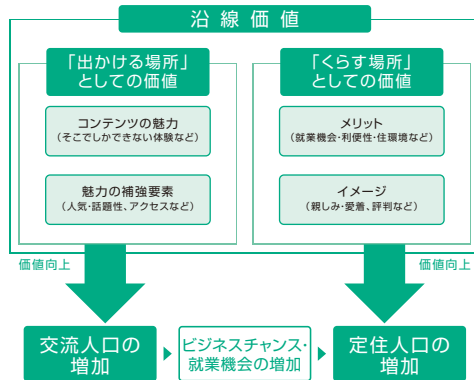
沿線価値向上の取組み

沿線価値向上の考え方

当社グループは、事業基盤である沿線エリアを維持・発展させることを重要な課題と認識し、「南海グループ経営ビジョン2027」における事業戦略の一つに「選ばれる沿線づくり」を掲げています。

これに基づき、沿線の人口動態を転出超過から転入超過に逆転させることを目指して、沿線の「出かける場所」・「くらす場所」としての価値を高める取組みを推進しています。

これらの取組みの結果、交流人口の増加を通じて、沿線に新たなビジネスチャンスや就業機会が生まれ、定住人口の増加につながることを目指しています。



高野山エリア

こうや花鉄道プロジェクト

観光列車「天空」の運行や、地元ボランティア団体との協働による駅や車窓沿いへの花植え、植樹など、高野山への道中に鉄道の魅力や旅行の楽しみを、地域とともに創出する取組みを進めています。



こうや花鉄道「天空」

高野山観光魅力向上プロジェクト

高野山上および山麓エリアの新しい楽しみ方を創出・訴求することで、より幅広い層の方に同エリアに関心を持ち訪れていただくことを目指して、2018年度から開始したプロジェクトです。駅舎を活用した新たな見所づくりなどに取り組んでいます。

<これまでの主な取組み内容>

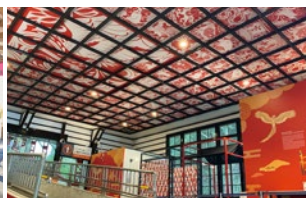
- ・「参詣道歩きのかげ」として2施設をオープン(2019年11月)
九度山駅舎内 おむすびスタンド「くど」
高野下駅舎内 駅舎ホテル「NIPPONIA HOTEL 高野山 参詣鉄道 Operated by KIRINJI」
- ・極楽橋駅を「はじまりの聖地」としてリニューアル(2020年7月)
2つの天井絵巻、「はじまりの手水舎」「極楽鳥の願掛羽」などを設置



高野下駅 駅舎ホテル



九度山駅 おむすびスタンド「くど」



極楽橋駅 「はじまりの聖地」

加太エリア

加太さかな線プロジェクト



めでたいでんしゃ「かい」「さち」

加太線の観光路線化による加太エリアの交流人口拡大を目指し、2014年度から加太観光協会及び磯の浦観光協会と共同で推進しているプロジェクトです。観光列車「めでたいでんしゃ」3編成の運行や季節ごとのイベントなど各種取組みを実施しています。



加太駅でのイベントの様子

加太リノベーションまちづくりプロジェクト

遊休不動産等のまちの資源を活用して地域課題を解決する「リノベーションまちづくり」の手法により、加太に訪れる人・くらす人のための新たなコンテンツが生まれることを支援して、加太線の活性化を推進するプロジェクトです。

2018年度から開始し、自治体や加太線沿線で活動する方々と協働して「リノベーションまちづくり」の成功モデルを作り、沿線の他のエリアにも展開していくことを目指しています。



リノベーションスクール@加太

<これまでの主な取組み内容>

- ・和歌山市と「リノベーションまちづくり」に関する連携協定を締結(2018年10月)
- ・まちのトレジャーハンティング@加太(2019年7月)
- ・リノベーションスクール@加太(2020年2月)

沿線企業イノベーション支援

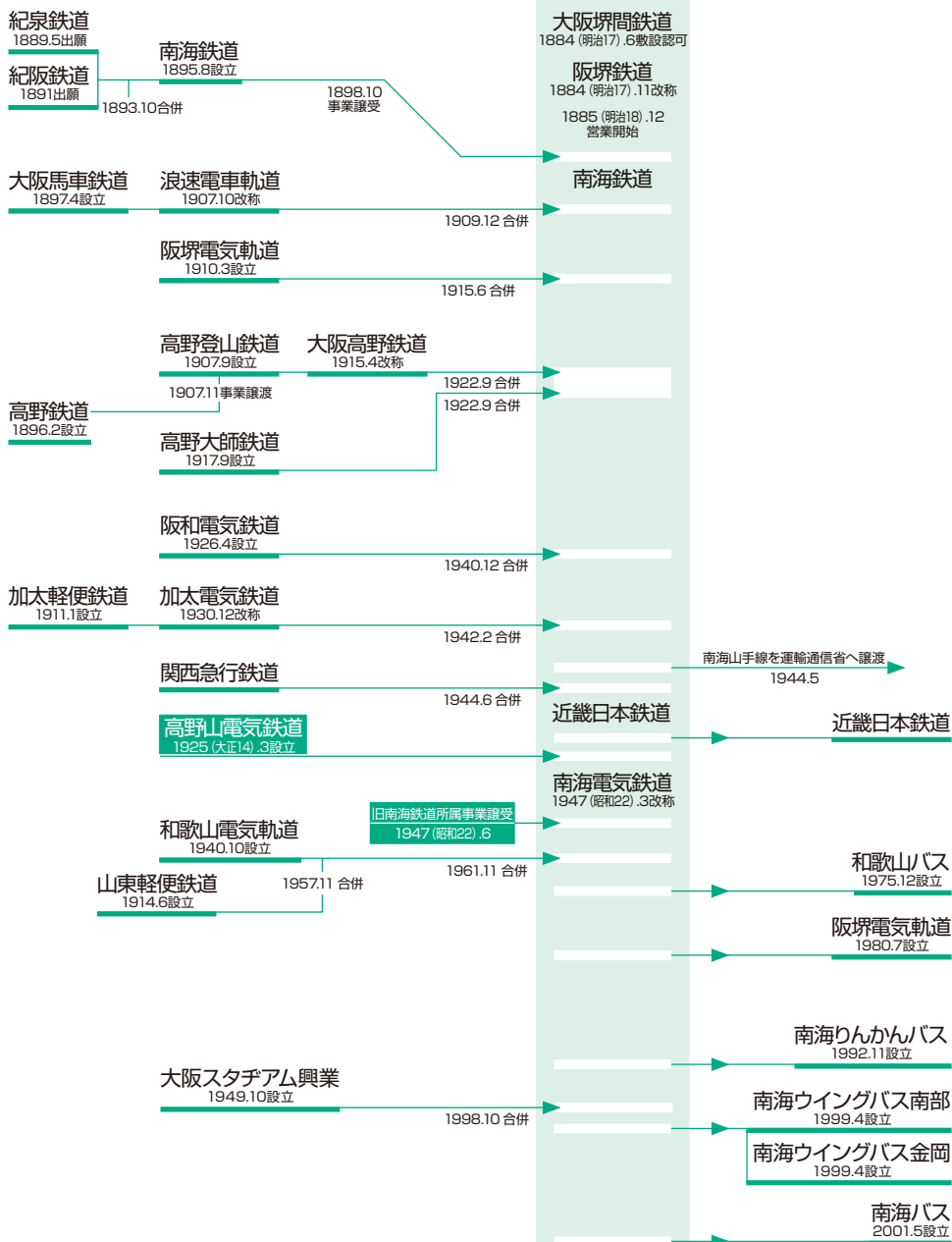
定住人口増加のための重要なファクターである魅力的な就業機会の維持・増加を目指して、沿線企業の事業拡大・新規事業開発や後継者への事業承継などを支援する取組みです。

2019年から、沿線企業の後継者が家業のリソースを活用した新アイデアを考えるワークショップ「南海沿線アトツギソン」を開催するなど、沿線自治体や金融機関等のプレーヤーと連携して、沿線企業の支援に取り組んでいます。



南海沿線アトツギソン

南海グループのあゆみ



創業～南海鉄道の誕生

当社は、わが国最初の純民間資本による鉄道会社であり、阪堺鉄道を前身としています。

1884年6月、当時大阪財界の重鎮であった藤田傳三郎、松本重太郎ら19人が発起人となって、大阪堺間鉄道の敷設認可を受けました。大阪堺間鉄道は、のちに阪堺鉄道と改称して鉄道建設を進め、翌1885年12月27日、難波～大和川間(7.6km)を小型蒸気機関車で開通しました。1888年5月には、路線を堺の吾妻橋まで延長し、当初の計画どおり難波～堺間を全線開通しました。

一方、1895年に紀泉鉄道と紀阪鉄道が合併して

誕生した南海鉄道は、1897年10月に堺～泉佐野間を開通し、1898年10月には阪堺鉄道の事業を譲り受け、1903年3月難波～和歌山市間を全通しました。

さらに1922年には、現在の高野線である大阪高野鉄道と高野大師鉄道を合併し、1925年7月に汐見橋～高野下間を全通しました。また、同年3月には岸ノ里で南海本線と連絡しました。

そのほか、1909年、浪速電車軌道を合併して上町線に、1915年、阪堺電気軌道を合併して阪堺線・平野線とし、現在の当社路線は、この時期にほぼ完成しました。

高野山までの直通運転～関西急行鉄道との合併

1925年3月26日、高野下～高野山間の鉄道敷設を目的に高野山電気鉄道が設立されました。同社は1928年6月に高野下～紀伊神谷間、1929年2月紀伊神谷～極楽橋間、1930年6月には鋼索線を開通、1932年4月に南海鉄道との相互乗り入れを実施し、ついに難波～高野山間の直通運転を開始しました。

1930年6月、天王寺～和歌山(東和歌山)間に阪和電気鉄道が開通しましたが、監督当局のすすめに

より、南海鉄道が1940年に同社を合併し、南海山手線としました。

やがて戦局の悪化により、政府は戦時輸送体制確立のため民鉄10社に対し強制買収を決め、山手線もその対象となり1944年5月運輸通信省に譲渡。6月には南海鉄道は関西急行鉄道と合併、社名を近畿日本鉄道としました。こうして南海鉄道の南海線・高野線は近畿日本鉄道難波営業局、軌道線は同天王寺営業局の所属となり、終戦を迎えました。

新発足～南海グループの発展

終戦後、形式的には高野山電気鉄道が母体となり、近畿日本鉄道から旧南海鉄道に属した鉄道と軌道のすべてを譲り受ける形で、1947年6月1日、社名を南海電気鉄道と改め新発足しました。

創業70周年を迎え、四国航路の開設・みさき公園の開園・南海会館ビルの建設という3大プロジェクトを実現したほか、バス路線の飛躍的拡大、住宅開発事業の本格化、沿線を中心に南紀・四国地区を拠点とするグループ事業の拡充などによって、南海グ

ループは大きく発展を遂げました。近年では、機動的かつ効率的な事業運営を実現するため、バス事業などを当社からグループ会社に譲渡・分社化。また、2014年7月に泉北高速鉄道をグループ化するなど、お客さまの多種多様なニーズにグループ全体で即応し、全国的に信頼される「南海ブランド」の確立に努めています。

南海グループのあゆみ

南海電鉄のあゆみ

鉄道事業

年譜ほか

南海グループのあゆみ

南海電鉄のあゆみ

鉄道事業

年譜ほか

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表の要旨

(2020年3月31日現在)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
(資産の部)	
流動資産	73,221
固定資産	851,836
資産合計	925,058
(負債の部)	
流動負債	197,867
固定負債	471,186
負債合計	669,054
(純資産の部)	
資本金	72,983
資本剰余金	28,117
利益剰余金	108,690
自己株式	△ 350
株主資本合計	209,440
その他有価証券評価差額金	4,465
繰延ヘッジ損益	0
土地再評価差額金	30,976
退職給付に係る調整累計額	△ 468
その他の包括利益累計額合計	34,973
非支配株主持分	11,590
純資産合計	256,003
負債純資産合計	925,058

■ 連結損益計算書の要旨

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
営業収益	228,015
営業費	192,791
営業利益	35,223
営業外収益	1,462
営業外費用	5,009
経常利益	31,677
特別利益	3,000
特別損失	4,150
税金等調整前当期純利益	30,527
法人税、住民税及び事業税	7,580
法人税等調整額	1,127
当期純利益	21,819
非支配株主に帰属する当期純利益	1,008
親会社株主に帰属する当期純利益	20,811

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

科 目	金 額
営業活動によるキャッシュ・フロー	58,935
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 48,915
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 14,853
現金及び現金同等物の増減額	△ 4,833
現金及び現金同等物の期首残高	21,864
現金及び現金同等物の期末残高	17,030

■ 連結株主資本等変動計算書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

〈単位:百万円〉

	株 主 資 本					その他の包括利益累計額					非支配株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	72,983	28,105	91,301	△ 160	192,230	7,143	—	30,953	529	38,625	10,705	241,561
当期変動額												
剰余金の配当			△ 3,400		△ 3,400							△ 3,400
親会社株主に帰属する当期純利益			20,811		20,811							20,811
土地再評価差額金の取崩			△ 22		△ 22							△ 22
自己株式の取得				△ 190	△ 190							△ 190
自己株式の処分		0		0	0							0
非支配株主との取引に係る親会社の持分変動		12			12							12
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)						△ 2,677	0	22	△ 997	△ 3,652	884	△ 2,767
当期変動額合計	—	12	17,388	△ 190	17,209	△ 2,677	0	22	△ 997	△ 3,652	884	14,442
当期末残高	72,983	28,117	108,690	△ 350	209,440	4,465	0	30,976	△ 468	34,973	11,590	256,003

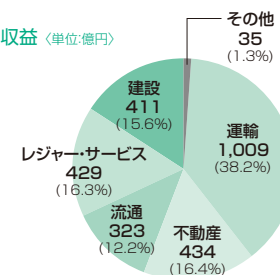
■ セグメント情報

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

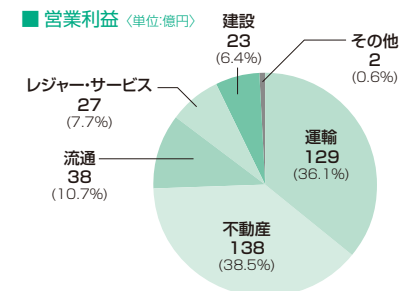
〈単位:百万円〉

	営業収益	営業利益
運輸業	100,980	12,953
不動産業	43,486	13,832
流通業	32,348	3,835
レジャー・サービス業	42,981	2,762
建設業	41,111	2,304
その他の事業	3,503	212
調整額	△ 36,396	△ 677
連結	228,015	35,223

■ 営業収益 (単位:億円)



■ 営業利益 (単位:億円)



連結経営成績の推移

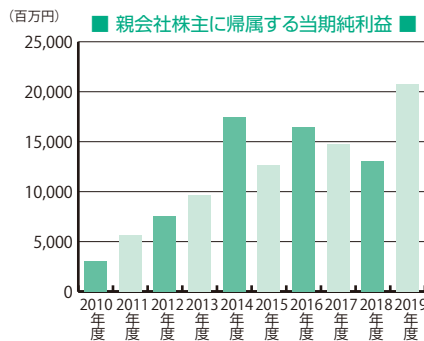
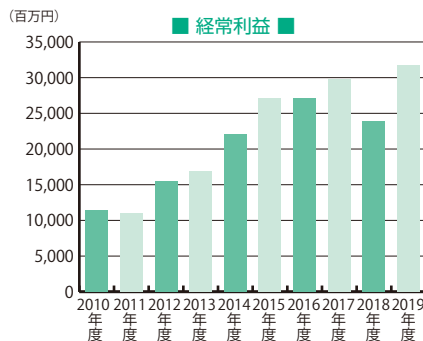
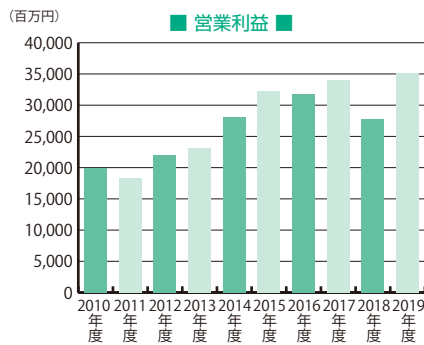
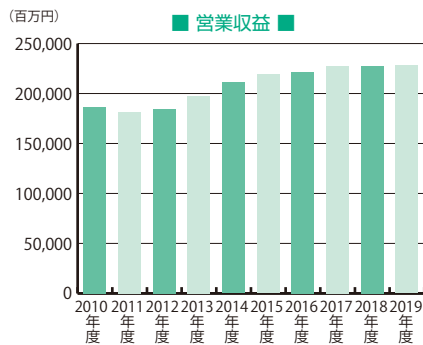
CSR

連結経営成績の推移

〈単位:百万円〉

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期純利益
2010年度	186,164	19,900	11,466	3,054
2011年度	181,869	18,294	11,067	5,686
2012年度	184,412	21,973	15,474	7,518
2013年度	197,495	23,062	16,899	9,615
2014年度	210,995	28,118	22,001	17,467
2015年度	219,065	32,318	27,110	12,612
2016年度	221,690	31,840	27,111	16,452
2017年度	227,874	33,971	29,733	14,719
2018年度	227,424	27,745	23,898	13,023
2019年度	228,015	* 35,223	* 31,677	* 20,811

*…それぞれの項目における過去最高額



SDGsへの取組み

当社の目指すSDGsへの貢献



当社はこれまでも、鉄道事業やまちづくりなどの地域に密着した事業活動の中で、社会への貢献を果たしてきました。一方で社会からは企業に対して、これまでのCSR（企業の社会的責任）だけでなく、SDGsに象徴される社会課題に対する企業の対応がより強く求められています。当社では、事業特性・事業エリアを踏まえつつ、当社が取り組むべき課題をESG視点で整理し、事業活動を通じて解決していくプロセスを循環させることで、関係するSDGs目標にも貢献し、沿線価値、企業価値の向上につなげ、サステナブルな企業グループを目指します。

安全性向上への取組み

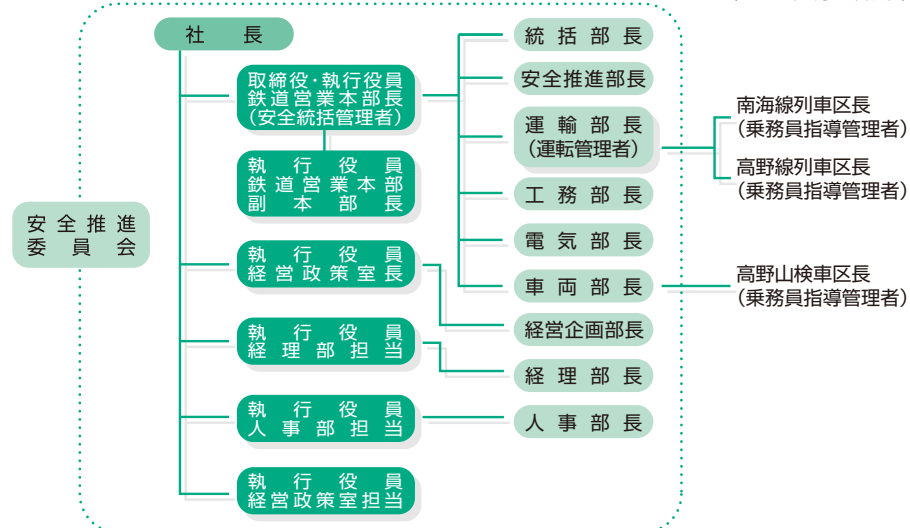
社会の信頼にこたえ、お客さまに最良のサービスを提供するため、当社では「安全」を最優先に取り組んでいます。「安全方針」を制定し、安全第一の意識をもって事業活動を行える体制の整備に努めるとともに、鉄道施設、車両、社員を総合的に活用することで、輸送の安全確保に努めています。

安全方針

1. 安全最優先を原則とし、協力一致して事故の防止に努めます。
2. 輸送の安全に関する法令、規程を遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
3. 作業にあたり、必要な確認を励行し、最も安全と思われる取扱いを実行します。
4. 事故・災害が発生したときは、人命救助を最優先に考え行動し、すみやかに安全適切な処置をとります。
5. 安全管理体制を適正に運用し、不断の改善に努めます。

組織体制

(2020年6月18日現在)



■ 安全のための教育・訓練・設備

安全性向上を図るためには、技術の継承をより確実なものとし、実践教育の充実を図ることが重要と考えています。鉄道営業本部の各部門では新入社員、中堅社員、熟練社員に対して計画的に技術・技能の向上を図るべく教育・指導を行っています。

さらに、消防署や地域の方々に参加いただいた「事故復旧総合訓練」を毎年実施し、負傷者の救助や避難誘導、損傷した施設や車両の復旧作業及び関係部署への通報連絡などの訓練を行い、異常時対応能力の向上を図っています。



事故復旧総合訓練

※「安全対策設備」については72ページで紹介しています。

環境理念

わたしたち南海グループは「地球環境保全」を企業の使命の1つと認識し、すべての事業活動を通じて環境への影響を常に配慮し、自然環境にやさしい社会づくりに向けて行動します。

■ 南海環境ビジョン2030

南海グループでは、地球環境に関する課題認識を発展させ、幅広いステークホルダーへの社会的責任を果たすことで当社グループの持続的成長に資することを主旨として、「南海環境ビジョン2030」を制定しました。同ビジョンは、あらゆる事業活動を通じて環境問題の解決に貢献していくことが企業価値向上につながるという認識のもと、中期環境計画と連動しています。

同ビジョンでは、環境問題の中でも、当社グループの事業活動に影響が大きい「地球温暖化」「循環型社会」「生物多様性」の3項目とこれらの基盤となる「環境マネジメントシステム」を環境課題ととらえ、2030年の目指すべき方向性からバックカスティングにより、各年度の実行施策を策定しています。

また、環境ビジネスによる収益源の拡充ならびに自治体との連携により、事業価値のみならず沿線の環境価値の向上に貢献していきます。

環境課題	2030年度の方向性
1 地球温暖化の抑制	南海グループのCO ₂ 排出量26%削減(対2013年度比) 環境ビジネスによる企業価値の創造
2 循環型社会の実現	沿線におけるスマートシティの形成
3 生物多様性の保全	自然との共生社会の実現
4 環境マネジメントの深度化	環境推進体制の充実と環境情報開示の強化

コンプライアンスの取組み

■ 企業倫理規範の制定

当社及びグループ会社の健全な発展と企業倫理確立のため、「企業倫理規範」を制定しています。(企業倫理規範については表紙裏に掲載)

■ コンプライアンスの取組み体制

当社及びグループ会社のコンプライアンス経営の推進を担当する専任部門を設置するとともに、コンプライアンス啓発の中心的な役割を果たす「コンプライアンス担当者」を各部門及びグループ会社に配置しています。担当者は年度ごとに「コンプライアンス啓発実施計画」を作成し、啓発活動を実施するほか、年2回開催される会議に出席し、進捗状況などについて意見交換を行います。

■ 企業倫理ホットライン制度

当社及びグループ会社の法的・倫理的問題を早期に発見し、是正していくための体制として、役職員からの通報・相談を受け付ける「企業倫理ホットライン制度」を設置しています。

■ コンプライアンスマニュアルの策定

「企業倫理規範」の精神を定着させるための指針として、当社及びグループ会社の役職員一人ひとりの業務や行動レベルまでブレイクダウンするために、「コンプライアンスマニュアル」を策定しています。

■ コンプライアンス教育の実施

当社及びグループ会社の役職員へのコンプライアンス意識の浸透を図るため、階層別の研修を継続的に実施するとともに、各種集合研修などの取組みを実施しています。また、毎年10月に設定する「コンプライアンス強化月間」では、啓発ポスターの掲示や、一般社員が具体的な事例をもとにグループ討議を行うコンプライアンス・フォーラム・ディスカッション(CFD)を実施しています。

リスクマネジメントの取組み

様々なリスクに対し適切に対応するため、リスクを組織横断的に管理する体制を構築し、事業に関わるリスク情報を把握するとともに、優先的に対処すべきリスク項目を選定しています。その上で、各部門及びグループ会社において、リスクの回避または軽減のための「南海グループリスク対策計画」を策定し、年間を通じて取組みを行います。

さらに、進捗状況の確認や評価を行い、次年度計画へ反映するなど、リスクマネジメントのPDCAサイクルを推進しています。

BCP(事業継続計画)

当社では、大規模地震をはじめとする緊急事態が発生しても、重要な事業を中断させず、または中断したとしても可能な限り短時間で復旧できるよう、事前に行うべき対策と行動要領等を定めた「BCP(事業継続計画)」を策定しています。また、BCPが確実に機能するための訓練を適宜実施しています。さらに、グループ会社においても順次BCPを策定しており、今後も展開に努めます。

ダイバーシティへの取り組み

経営環境の変化に柔軟に対応し、持続的に成長していくためには、組織内の多様性を尊重し、積極的に活用していくことが不可欠であると考え、様々な切り口からダイバーシティの推進に努めています。

1. 女性のさらなる活躍推進に向け、ベースとなる女性社員の採用比率の向上や、活躍の場の拡充などを目標とする行動計画を策定し、様々な取り組みを行っています。
2. 定年退職後の再雇用制度を導入し、原則として希望者全員を引き続き雇用しています。
3. 障がい者の雇用促進のため、特例子会社(株)南海ハートフルサービスを2005年2月に設立。清掃や郵便仕分けなどの業務を担っています。

沿線活性化の取り組み

■ 地域交流

千代田工場で毎年「南海電車まつり」を開催し、ラピート車内見学会や子ども車掌体験などの各種イベントを通じて当社への理解を深めていただいています。

また、沿線の小学生などを対象とした車庫見学会、阪堺電気軌道「路面電車まつり」、スルッとKANSAI「バスまつり」などで沿線のお客さまとの交流の機会を設けています。



南海電車まつり

■ 沿線振興

1. 南海コンサート

沿線を中心とした関西における音楽文化の向上などを目的として、天下茶屋に拠点を置く大阪フィルハーモニー交響楽団のコンサートを、当社協賛で定期的に開催し、66回の実績があります。

2. 南海沿線文化セミナー

沿線にゆかりのある武将や偉人、名所や旧跡、地域に根ざした文化等を紹介し、沿線の魅力を発見していただくことを目的に、2008年度から定期的に開催しています。



南海沿線文化セミナー

3. スポーツ振興

沿線のスポーツ振興を目的に、Vリーグ所属の堺ブレイザーズと協働で、沿線の中学校男子バレーボール部に堺ブレイザーズの選手を派遣して行う直接指導やバレーボール大会などを2009年度から実施しています。



バレーボール大会

コーポレートレポート

コーポレートレポートを発行しています。当社のホームページからご覧いただけます。

URL ▶ http://www.nankai.co.jp/company/environmental_protection/kankyou_report.html



「コーポレートレポート2019」表紙